

平成 30 年度第 3 回相談支援専門部会 事後アンケートまとめ

- 【議題：区内計画相談支援の実情と課題について】の検討を踏まえ、区内の計画相談支援をより良いものにしていく為に、どのような取り組みやどのような検討が必要だと思うか？

報酬面での課題、その課題に対する取り組み。相談支援専門員の増員と質の向上。
居宅介護や移動支援をはじめとしたヘルパー不足、生活介護や一時預かりサービスなどの地域資源の拡充。
介護保険と障害福祉サービスとの連携、サービス内容の違いによる生活環境の変化、スムーズな移行などのすり合わせ。
相談支援事業所だけでなく、サービス提供事業所の相談力や意思決定支援の向上などの支援力の向上。
事例を通しての地域課題の表出。
当事者の意見を発言できる土壌を作っていくべきだと考える。「私たちのことを私たち抜きに話してはいけない」と考えている。「当事者から意見を伺う」という委員会はあるべきかと考える一方、自分は何をしたいのか、どういう生活を送りたいのかを発言できる「場」を増やし、その声を聞いたうえで政策に転嫁させていくべきだと考える。

- 【議題：ぶんきょう計画相談調査ワーキンググループ 調査結果について】の報告内容を踏まえ、計画相談支援を利用することのメリットなどについて

地域にあるサービスの紹介、当事者本人が客観視できるきっかけになる、支援者チーム全体にサービス利用状況などの共有がしやすくなった。
計画作成だけでなく相談支援も一緒に行えるところや、緊急時の対応など指示を仰いだり、利用者、家族、介護職にとっても安心だと思う。相談支援専門員が社会資源などいろいろ情報を提供することにより、利用者の選択肢も増える。
現在は「相談支援計画」ありきとなりつつある。介助者を使って失敗を重ね同じことを繰り返さない、または介助者との距離の取り方を図った。それが当たり前のはずだったのに、その苦い経験ができなくなってしまった。利用者と介助者の間に入ってきた「当事者の存在」が希薄になってきた。
家族など同居世帯、独居世帯いずれにしても不安や悩みなどを抱え込むことを防ぎ、社会からの孤立、孤独を防ぐ、一助になると考えられる。サービスの内容や申請の複雑さから、利用者一人で制度や内容を理解するのは困難である。一緒に確認をすることで、理解が進み、加えて、より自分にあったサービスを選択することができやすくなると感じる。(自己選択・自己決定の支援)

- 【議題：指定特定相談支援事業所連絡会、相談支援専門部会定例会議年間活動報告】の報告内容を踏まえ、連絡会や定例会議にて取り上げてほしいテーマや、会議の在り方などについて

重度障害者についてのテーマや議題が少ない。
事例の収集、難しい事例の共通点の分析や事例検討、も含め、地域課題の表出と支援力の向上を目指す。また当事者の気持ちの変化に焦点を充てることも必要。
地域のネットワークづくりに計画相談がどのような役を担ったのかを明らかにしていく。

- 第 3 回相談支援専門部会についての感想、次回以降で取り扱って欲しいテーマなど

災害に向けた準備、セルフプランの質向上の為の取り組みとは。
障害者の居住支援。
共生型サービスについて。
相談支援事業所と自治体との話し合いで相談支援体制が改善された事例をもとに、どのようなアプローチが区内で考えられるか検討する機会を設ける。